

離島実習を終えて

今回私は8月19日から24日まで奄美大島で実習をさせていただきました。今回の実習は何といっても「台風」だったなというように思う。台風によって離れ島への巡回診療を始めとした様々な診療が行えなかった。やはり自然には勝てないということを改めて感じた。将来地域で診療を行っていく身として、普段の診療だけではなく、今回のケースのように自然災害が起こったときに対する備えといった災害医療の観点からの考え方も必要だと感じた。

また、今回の実習を通して多くの先生方と様々なお話をさせていただきました。その中で「総合診療は広くちょっと深く」という言葉が非常に心に残った。地域医療では子供からお年寄りの方まで幅広い年齢の方の全身を診なければならない。また、患者さんとの距離という点でも離島・へき地における総合診療では深い関係になってくる。こういった点で改めて総合診療の難しさを実感した。

さらに、先生方の考えている自分自身の今後についてのお話を聞いて、私も将来についてももっと具体的に考えていきたいと思った。今までは「総合診療をやりたい」というぼんやりとした内容だったが、これからは専門医などについてもより考えを深めていきたいと思う。

今回の実習で普段の講義などでは経験できない様々なことを経験させていただきました。自分の将来のことなども考えながらこれからの学生生活を頑張っていきたいと思う。

~俳句~

地域医療 広くて深い 道長し

瀬戸内のへき地診療所で外来の空き時間に先生とお話の中で聞いた、「地域医療は広くちょっと深く」という言葉がとても印象に残りました。また、去年は下甕島、今年は奄美大島に行かせていただき、それぞれの地域によって医療は少しずつ異なっていると感じ、将来地域医療に携わる身として大変さと共にやりがいも感じたためこの句を詠ませていただきました。

最後になりますが、今回の実習でお世話になった瀬戸内へき地診療所及び県立大島病院の皆様、本当にありがとうございました。